

公益社団法人熊谷青年会議所移行の趣意

熊谷青年会議所は1952年の設立以来、よりよき郷土熊谷の建設と自己の修練と事業の隆昌を図り、戦後の荒廃した時代から東日本大震災の復興に至る今日までの63年間、熊谷地域のみならず我が国の発展に寄与してきました。しかしながら解決しなければならない課題や様々な問題が山積する中、多岐にわたるまちづくり団体やNPO、NGO等が設立され、人口減少に伴う青年世代の減少から、「青年会議所しかなかった時代から青年会議所もある時代」と揶揄されることもある今、地域に必要とされる青年会議所の存在と存続は極めて重大であると確信いたします。

2008年に施行された公益法人制度改革により、民間非営利部門の活動の健全な発展を促進するため、公益法人制度の抜本的かつ体系的な見直しに伴う法人格移行の必要性が生じ、その後公益社団法人となるのか一般社団法人となるのか選択すべく多くの議論を重ねてきました。そして、これからも地域を動かし得る存在感をもった組織へと進化を遂げ、常に影響力のある公益的運動を展開していくために、私たちは迷うことなく公益社団法人への移行の選択を決断しました。私たちは設立以来の本質を変えることなく「明るい豊かな社会」の実現にむけた運動を継続し、メンバーの能力や資質の向上をおこない自企業の成長を推進し、真に地域と共存する組織へと進化しなければならないという決意のもと、今回ここに公益社団法人熊谷青年会議所へと移行することとなりました。

私たちはこれからも青年経済人として、あらゆる機会を捉えて自ら修養し常に語り強く団結し、熊谷の更なる発展のために率先して先頭に立ち行動する人材を育成していきます。そして英知と勇氣と情熱をもって、日々切磋琢磨し地域を思い真剣に議論を重ね、行動に移し地域のため、未来のため、未来を生きる子どもたちのために公益的運動を力強く展開し、郷土熊谷を愛し誇り高く活動してまいる決意であります。

平成26年12月